

＜先週の説教から＞

「ルカ79—これは私の子、これに聞け」

武田 真治 牧師

詩編 43：3～5 ルカ福音書 9：32～36

イエス様が山の上で、その姿が変わり、白く輝き、しかも、そこに天からモーセとエリヤが降りて来てイエス様と語り合ったという出来事（「山上の変貌」と呼ばれています！）は、今の私達にもなかなか理解し難い出来事のように思われますが、その時その場所に共にいた弟子たちにとっては更に不思議な驚く体験だったのではないかと思います。実際、そこに居たペトロは『すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです』と言ったと記されています。しかもこの言葉について後に「ペトロは、自分でも何を言っているのか、分からなかったのである」という注釈も付け加えられています（ペトロの言葉がふさわしくないことを認めている）。どうしてこんな扱い方をしているのでしょうか、良くない言葉なら最初から書かなければいいのに！

このペトロの言葉は他の福音書にも記されておりペトロが語ったことは事実でありそのまま記したのでしょう。ただ、後からペトロ自身が『あの時は気が動転してしまい思わず口走ってしまった』と正直に語っていたのかもしれませんが、それを福音書の編集者がここに入れたということかもしれません。いずれにしろ、弟子たちにとっても驚くべき出来事であり、正しく理解するためには時間を必要とする出来事であったということではないでしょうか。

ただ、このペトロの言葉は私達も陥りやすい課題を含んでいると言います。それは、ペトロがモーセ等のために仮小屋（＝幕屋）を建てたいと願ったことはどう見ても、拝むための建物を地上に残したいと考えてしまったことであり、故に、ふさわしくない言葉だったのでしょう。人間は、何か驚くべきことや存在が現れる時、それを拝んだり、祭ったり、何か特別な建物や社を建てて残そうとしてしまう傾向性を持っているということ、それが偶像礼拝のような罪を犯してしまうことがあることをよく示しているのです。あのペトロでさえ、そうであったということでしょう。

この出来事は最初に「この話をしてから八日ほどたったと

き」とありますように、イエス様が弟子たちに初めて“受難予告＝苦しまれて十字架で死ぬ”を為されたことから「8日目」であり、これからどうなるのだろうかと不安になってしまっている弟子たちに対して、イエス様ははっきりと天上での姿を弟子たちに見せることによって、十字架の後に“復活と昇天”が待っていることを目に見える形で示され、大丈夫だからと教えようとされた出来事でした。故に、天へと思いを馳せることがこの出来事の目的でした。

この点については、実際にイエス様が復活され昇天された後に“そうか、あの出来事はこのことの先触れだったのだ！”と弟子たちが完全に納得できたのだと言います。それ返はなかなか納得できない出来事だったのでしょうか。まさにこの点を確認するように『これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け』という声が“天から”響いたのでした。まさに《天へと思いを馳せるように》と！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 7月15日（水）20：00
II. 7月16日（木）10：30

聖書研究： ヨブ記
祈禱主題： 長老会を覚えて
担当者： （水）IT （木）NE
祈りに覚える人 STさん SYさん

【教勢報告】

主日礼拝 男17 女52 計69
祈 禱 会 I. 男3 女2 計5 II. 男1 女4 計5
日曜学校 幼稚科4 小中科10 計14

【次週礼拝】 7月19日（日）

聖 書： 申命記 32：1～6
ルカによる福音書 9：37～43
説 教： 「ルカ80—なんと、よこしまな時代か！」
武田 真治 牧 師

讃美歌： 51（1）、32、155、446、474、
83（1）

【次週当番表】

司式： SM 長老 奏楽： KH 礼拝： IK 長老
献金： SM SY 受付： KN YS
会堂準備： KK KT TR NE
HH HH
看板： SC 週報： YS お花： HM

【次週集会予定】

礼拝前： ・日曜学校 ・聖書輪読会 ・はこぶねルーム
礼拝後： ・お茶の会 ・牧師と語る会 ・日曜学校教師会
・聖歌隊練習 ・オリブの葉編集委員会
・幼稚園理事會

67 - 28

週 報

2026年度 教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

2026年 7月 12日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧 師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549